

たかが水虫 されど水虫 !!

～ 白癬菌対策への取り組み～
発表者 渡邊 貴志

社会福祉法人 信義福祉会
特別養護老人ホーム あかなすの里



施設の紹介

当法人は中規模の複合施設です

- 特別養護老人ホーム 50床
- ショートステイ(併設) 20床
- デイサービス(一般型) 35名
- 認知症対応型デイサービス 8名
- 軽費老人ホーム(ケアハウス) 20名
- ホームヘルパー
- 居宅介護支援事業所
- 在宅支援センター(包括支援センター協力機関)
- 給食配送サービス(市の委託事業)

研究課題の選定理由と目標(ゴール)の設定

- 感染症対策委員会の活動を進めるにつれ、白癬菌に対する委員の意識が強まりました。
- しかしながら、それぞれの委員が所属する現場のご利用者は、**その多くに水虫と思われる症状**が見られました。
- そこで、現場の実態を把握するべきではないかと考え、委員会で取り組む課題としました。
- 今回は、感染症対策の観点で、白癬菌の蔓延防止を試み、**ご利用者の症状が軽減**することを課題(目標)として設定しました。

現状の調査

項目	写真	部位	病歴/経過	備考
1		両足		水虫
2		両足		水虫
3		両足		水虫

特養入所者の足(皮膚の状態)について、「水虫チェック表」をもとに(入院等による不在者を除く)全数調査を行いました。


現状の調査の結果

症 状	人 数
趾間 - 趾間(しかん)型 足の指の間で皮剥け症状	1人
小水疱 - 小水疱(しょうすいほう)型 水ぶくれ症状	0人
角質 - 角質増殖型 乾燥ひび割れ症状	0人
つめ - つめ水虫 ツメの中が水虫になる症状	3人
趾間+角質	1人
趾間+つめ	23人
角質+つめ	5人
小水疱+つめ	1人
趾間+角質+つめ	5人
小水疱+角質+つめ	1人

調査対象者の人数 = 40名
平均介護度 = 3.7 (H22.4)

- 医療的な症状名について調査結果を分類し、**今回は水虫様(水虫風の症状)であるものを除いて集約**しました。
- 現状をみると、**白癬菌などの感染症状が蔓延傾向**にあることを否定できず、**対策について再考要**すことが明らかでした。

現状のケア(これまでの対策方法)と、 問題点として浮上した内容について



入浴の際、浴槽から出た後に「出がらし茶」で足を洗うことについて



介助者の熟練度によって、足の洗い方に個人の技量差がみられました。

誰もが上手に洗えるように、上手な職員をお手本にしたビデオを作製し、ノウハウを標準化する取り組みを行う必要があります。

着衣後に足背だけをドライヤーで乾燥し、直ぐに靴下を履いてしまうことについて



趾間（しかん）に湿り気が残ってしまう乾かし方では、白癬菌（カビ）などに居場所を与えることになってしまいます。

この例では、足の細菌を減らすことができていないので、丁寧にしっかりと乾燥する必要があります。

靴下の履き替えが週2回の頻度になっていることについて



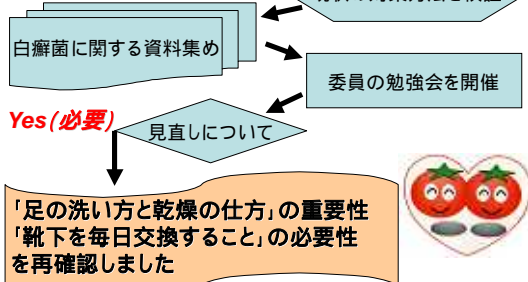
業務としての思い込みで感覚が麻痺していたのか、このことを疑問視できていませんでした。この点を反省し、靴下の交換を毎日する必要があります。

問題点を克服するための改善方法の考案と施設の取り組み(現場での検証)

- 感染対策方法の見直し(委員の勉強会と検討会)
- マニュアルの作成(ケア技術を現場で標準化)
- 勉強会の開催(介護職員へノウハウを伝承)

感染対策方法の見直し

- 感染症対策委員会の行動



勉強会の開催

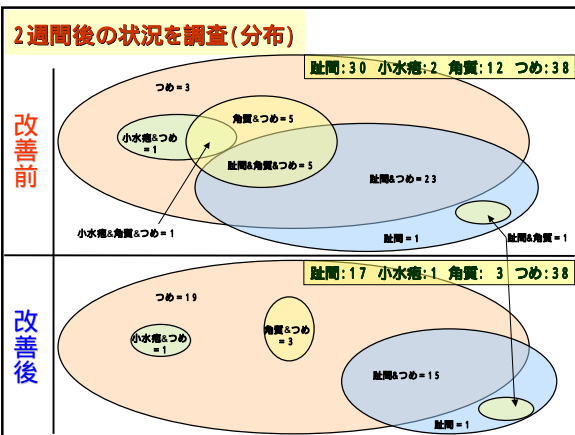
- 感染症対策委員会で勉強したノウハウを介護職員へ伝承するため、職員研修会で発表の場を設けてもらいました。



効果の検証と今後の課題

- 2週間後の状況を調査(分布)
- 調査結果を検証(表)
- 検証結果の考察と今後の課題

2週間後の状況を調査(分布)



調査結果を検証(表)

症 状	対策前	対策後(2W)	対策効果
趾間 - 趾間(しかん)腫 足の指の間で皮剥け症状	1人	1人	±0
小水疱 - 小水疱(しょうすいぼう)腫 水ぶくれ症状	0人	0人	±0
角質 - 角質増殖腫 乾燥ひび割れ症状	0人	0人	±0
つめ - つめ水虫 ツメの中が水虫になる症状	3人	19人	16増 複合症状が単独に
趾間+角質	1人	1人	±0
趾間+つめ	23人	15人	8減 2複 単独に
角質+つめ	5人	3人	2減 2複 単独に
小水疱+つめ	1人	1人	±0
趾間+角質+つめ	5人	0人	5減 3複 2複に
小水疱+角質+つめ	1人	0人	1減 3複 2複に

検証結果の考察と今後の課題

- 平成22年6月1日から特養の現場で開始した今回の対策は、2週間経過後の平成22年6月14日現在で**完治は無いの、特定の症状について大幅な軽減効果**がみられました。
- **「つめ水虫」は軽減が見られなかった**ので、有効な対策方法を見つけることが課題となります。
- 夏季と冬季ではシビアコンディションの様態(湿潤・乾燥、保温)が変わるので、季節に応じて対処方法の微調整が必要になります。
- 今後も継続して、1ヶ月後、3ヶ月後の検証を行い、ご利用者に少しでも気持ち良く過ごして頂けるよう努力します。



まとめ

- 今回、即効性の効果がみられなかった『つめ水虫』については、医療機関の受診によって塗り薬etcの処方を受けることが正攻法の一つと思われます。
- ご家族によっては、『**たかが水虫だから**』と言って下さることも、実際の現場では耳にすることです。
- しかしながら『**されど水虫**』です。私たち委員会は、『**ケアの工夫でこれが解消できないか?**』と考え、この活動を継続して実施しています。



ありがとうございました

・あかなすの里 感染症対策委員会

委員長 永田めぐみ(デイサービス)

委員 渡邊貴志(特養)

委員 塩崎宏美(看護師)

委員 羽切さち子(ホームヘルパー)

委員 大胡田千恵(ケアハウス)

オブザーバー 山田睦美(施設長)